

江の口川に想う

岩井 嘉信

一、はじめに

江の口川は、高知の旧市街地を旭地区より高知城の北側を経て、東へ向かい国分川：紀貫之ゆかり：に合流し浦戸湾に至る。：幅二百坪、長さ十kmかな：南は鏡川：長く綺麗：。

幼少時（四歳～十歳）、家が地球三十三番地のすぐ南にあつた。親が林業：山から樹木を切り出し：二ヶ所の製材所で建築材を造っていました。：兄弟三人で手広くやっていたようです。：櫓で漕ぐ舟（三人乗り）を造ってもらい、僕の遊び道具でもあり、生活の一部でした。（帆も張れました）

ロープで束ねた材木の上を跳び、川にドブン（ふんどしで）、泳ぎました。

二、生活

母と二人で舟で布師田（一宮の近く）まで行き、田を借り、田植え、草取り、虫取り、秋には穂を刈り、束ねて干す：後は百姓の人に米（玄米）に：家の横

に二十坪程の畠を母が作る：エンドウ豆、トウモロコシ（キビ）、南キン（カボチャ）、イモ、大根、ナス：季節に合わせ作っていました。

また。ニワトリを飼い玉子もとれ、母自慢の玉子焼き：今では自分で作り：食べる物には当時にしてはあまり不自由しなかつたようです。

三、遊び

（イ）しじみ貝取り：江の口川の東、国分川との合流点で小さなバケツ一杯分を一時間足らずで取れました。

（ロ）エビ、ウナギ：柴木、竹をくくり川につける、ミミズをとり袋に入れておく、時間（二〜三時間）をみて大きなアミを下に入れ引き上げる：一回でエビ、ウナギがよく取れました。

（ハ）カニ（エガニ）：夜カンテラを灯し舟で石垣沿いに探す、目が光る、カナツキを刺して取る：オイシイ：

（ニ）ヤゼ（黒い手長エビ）取り：朝、潮の引きを見て石垣から出てくるのをエビ玉ですくう：学校へ行く前：尾からそろりと出てくるのを待つてすくう、スリルがありましたよ。

三、 戦災：終戦の「玉音放送」を大杉で聞きました：

七月の空襲で旧市街は大部分が焼け野原に、江の口川も真っ赤に燃えた：焼夷弾と人の血：僕たち家族も防空壕より飛び出し、花火に染まるような空の下を江の口川を北に一文橋を渡り避難しました。

四、 南海地震：津波と江の口川：

母と二階から降りられず押し入れにいました。父は近くの家が壊れ救助に行きました。その時は江の口川にかかる橋（旧北新町）のすぐ近くにいました。川の水が引き黒い川底が見える程でした。川が怒ったのを感じました。「ボラ」や「フナ」が白い腹を見せ流れていました。

閑話休題：近況を少し：

今、高知市の北山の下の川辺に住んでいます（裏が川）。

○朝九時、妻と近くのスポーツジムに出勤（車は別）、ストレッチ、筋トレ、ウォーキング、etc（一時間程→一・五時間）、風呂で汗を流しマッサージ器（細動式）でホグして終わり。

○スーパーに寄り、水（ピュアーウォーター…蒸留水…）を四リットル…ご飯を炊く時と朝のコーヒーetc…私の当番です。七人分（三・五、四合）（娘二人と孫三人）米は仁井田米三十kgを七、八ヶ。

○妻が家庭菜園らしきものをしているので「水当番」が私の仕事です。（鉢、プランター、庭木、etc）二十分程度、夏は朝。夕にやる。

七月なのにバラ（クリスマスローズ）ピンク色二輪、ミニシクラメン紅色が四輪咲く。「四葉」のクローバーの鉢、市販されている「五葉」を孫が見付ける。

○蝉が朝早くから鳴きウルサイ！ 今年は「ミンミン」「ジージー」「ガーガー」多種に聞こえます。夏も盛りですが、少し疲れ気味。蝉しぐれと妻は云う。

（註）七人家族…僕ら二人、長女と子供二人、次女と孫娘。

五時頃次女の孫娘の迎えも仕事です（車で十分程）

